

第4学年3組 国語科学習指導案

平成19年 月 日 ()
指導者

1 単元名・教材名 すじ道を立てて考えよう 「アーチ橋の仕組み」

2 読解力の向上の視点

今回の、すじ道を立てて考えよう「アーチ橋の仕組み」では、読解力向上の方向に示されている(1)指導のねらいの「ア「テキストを理解・評価しながら読む力を高めること」の(イ)評価しながら読む能力の育成、イ「テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること」の(ア)テキストを利用して自分の考えを書く力を高めること、ウ「様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること」の(イ)自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成に焦点を当てて指導に当たることとする。

具体的な指導の手立てとしては、

- ①大段落の中の組み立てに着目して話し合う活動を取り入れる。例えば、本文の中で問いとなっている文をさがし、それに対して、取り上げた実験が適切であったか、また、その問いの文に対して答えになる文を見つけ、筋道が通っているかなどについて話し合わせる。
- ②話の大体がつかめたら、細かな叙述に目を向けるようにしていきたい。例えば、実際に造られたアーチ橋が「じょうぶな土台」でつくられているという語句から、「じょうぶな」とはどのような基準であるのかを想像して話し合う、「両はしから台形の石を積む」というのは、台形の石をどういう向きで積んでいくことをいっているのか、知っている知識や情報から考える、「木のほね組みをとりはずせば・・・」という文から、「木のほね組みをとりはずさない方がもっとじょうぶなのではないだろうか」と反論しながら話し合うなどの活動を取り入れていく。
- ③説明文から読み取ったことを要約して、身近な人に説明する文章を書いたり、伝え合ったりする活動を取り入れる。その際には、読み取ったことを丸写しするのではなく、伝えようとする相手に合わせてわかりやすい語句に置き換えたり、詳しい解説を付け加えたりするようにさせる。
- ④この文章を読んで思ったことや、考えたことを、深める活動を取り入れる。初発の感想と読み取りを終えた後の感想や意見を比べ、学習活動で得た考えや思いをまとめて自分の言葉で表現させるようにする。
- ⑤語彙力の低下が課題になっている現状を踏まえ、一人一人に国語辞書を持たせ、必要に応じて辞書を引かせるようにさせる。

3 児童の思いや願いと本単元の意図

本学級の児童は、一学期に「花を見つける手がかり」「とんぼの楽園づくり」の二つの説明的文章を学習してきた。そこでは、段落の中心となる文や語句を探してサイドラインを引き、その要点を短くまとめてワークシートに書くという活動を中心に行ってきた。また、接続語や文末表現にも着目させて「問いの文」「答えの文」「筆者の考え」の書かれている段落を見つけたり、意味段落、小見出しを考え文章全体の構成を理解する活動も取り入れてきた。その結果、児童によって差はあるが、段落の要旨をとらえることが少しずつできるようになってきた。しかし、それを自分の言葉に置き換えてまとめたり、自分の考えをもちながら読み進めたりすることは、まだ十分とはいえない。

学習指導要領第3学年及び4学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにする。」ことである。

本教材「アーチ橋のしくみ」は、児童にとって、未知の内容を多く含んだ興味深い話題である上、「アーチ橋の構造の強さ」「石のアーチ橋の作り方」「アーチ橋の歴史」が段落ごとに明確に整理され、大変読みやすい教材である。さらに、典型的接続詞である「ところで」「ま

ず」「次に」「このように」「では」「そして」「最後に」「こうして」などが適切に使われており、段落相互の関係もとらえやすい。また、挿絵や写真も多く取り入れられており、説明的文章を読み取る助けとなっている。

そこで、この学習においては、中心となる語を押さえ、抜き出しながら要約する活動を中心に行っていきたい。「中心となる語」というのは、接続詞やおとしてはいけない語や文のことである。学習活動の中では、接続語を四角で囲む、おとしてはいけない大事な語や文にはサイドラインを引くことを取り入れ、とらえさせるようにしていきたい。各時間の最後には、段落ごとに内容を整理しながら小見出しをつけ、段落相互の関係をとらえさせるようにしていきたい。また、読みの力を確かなものにするために、挿絵や写真に解説文をつけたり、この文を知らない人に説明する文章を書いたりする活動を取り入れていきたい。ほかにも、自分で読み取ったことをみんなで発表し合って練り上げ、よりよい要約文にしていく、中心となる語や文から想像をふくらませ「もし・・・だったら」「じょうぶな・・・とはどのくらいじょうぶなのか」など異論反論などを話し合うなどの活動を取り入れていきたい。

4 単元の見目標

- (1) アーチ橋の仕組みを説明する文章に興味・関心をもち、進んで中心をおさえて読もうとしている。(関心・意欲・態度)
- (2) 語や文のつながりをおさえ、段落相互の関係を考えながら、書かれていることを的確におさえて読むことができる。(読むこと)
- (3) 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語や指示語、文末表現などの役割を理解することができる。(言語事項)

5 単元の評価規準と学習活動における具体的評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読むこと	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・ アーチ橋の仕組みを説明する文章に興味・関心をもち、進んで中心をおさえて読もうとしている。	・ 語や文のつながりをおさえ、段落相互の関係を考えながら、書かれていることを的確におさえて読んでいる。	・ 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語や指示語、文末表現などの役割を理解している。
学習活動における具体的評価規準	① アーチ橋に興味をもって調べたり、知っていることや考えたことを発表したりしようとしている。 ② アーチや橋の仕組みに興味関心をもち、接続語などに注意しながら読もうとしている。	① 語や文のつながりをおさえ、問いの文に対して書かれている段落をつかみながら文章を読んでいる。 ② 中心となる語や文をとらえながら、段落相互の関係を考えて文章を正しく読み取っている。	① 指示語や接続語のはたらきに気を付けて、文相互の関係や段落相互の関係を理解している。 ② 文中に出てくる意味のわからない語句を辞書で調べて、理解している。

6 指導と評価の計画（全10時間）本時 5 / 10 時間

時	主な学習活動・学習内容	評価規準・評価方法
1	○「アーチ」「橋」から想像するものや身近な橋について話し合う。 ・アーチや橋について知っていること ○教科書の三枚の写真（東沢橋、大三島橋、瀬底大橋の似ているところや違っていることを探し出す。 ・新出漢字の読み ・挿絵（写真）と文との照応	ア① ・学習に取り組んでいる様子や態度の観察 ・発表の内容
2	○教材文の範読を聞き、初発の感想を書く。 ・初めて知ったこと、不思議に思ったこと ○漢字の読み等を間違えないように音読する。 ・正確な音読 ○意味のわからない言葉（語句）について意味調べをする。 ・国語辞典の使い方	ア① オ② ・学習に取り組んでいる様子や態度の観察 ・発表の内容 ・ノートによる考察
3	○初発の感想をもとに、学習計画を立てる。 ・学習課題 ○段落相互の関係をとらえ、文章構成を理解する。 ・形式段落、大段落	ア①② ・学習に取り組んでいる様子や態度の観察 ・発表の内容
4	○大段落（一）を読んで、「アーチが橋の組み立てに使われているのは、なぜなのか。」の疑問について読み取る。 ・段落構成の把握 ・接続語や指示語 ・問いの文と答えの文 ・要約の仕方 ・挿絵（写真）と文との照応	ア② エ① オ① ・学習に取り組んでいる様子や態度の観察 ・発表の内容 ・教科書のサイドライン ・ノートによる考察
⑤	○大段落（二）を読んで、「石づくりのアーチ橋をつくる方法」について読み取る。 ・段落構成の把握 ・接続語や指示語 ・要約の仕方 ・挿絵と文との照応 ・要約文（家族にわかりやすく伝える文章作り）	ア② エ② オ① ・学習に取り組んでいる様子や態度の観察 ・発表の内容 ・教科書のサイドライン ・ノートによる考察
6	○大段落（三）を読み、「今も生きている昔からのちえ」について読み取る。 ・段落構成の把握 ・昔と現代とのアーチ橋の共通点と相違点 ・要約文 ・接続語や指示語 ・挿絵（写真）と文との照応	エ② オ① ・学習に取り組んでいる様子や態度の観察 ・発表の内容 ・教科書のサイドライン ・ノートによる考察
7	○三つの大段落に小見出しをつけ、全体の文章構成をとらえる。 ・小見出しのつけ方 ・文章構成図 ○筆者の考えに対する自分の考えを書いて発表する。 ・筆者の考えと自分の考え	エ② ・学習に取り組んでいる様子や態度の観察 ・発表の内容 ・ノートによる観察
8	○「まず」「次に」「このようにして」などのはたらきについて考える。 ・接続語や指示語のはたらき ・接続語や指示語を使った短作文の制作	オ① ・学習に取り組んでいる様子や態度の観察 ・発表の内容 ・ノートによる観察

9	○選択型てびきの中から、どちらかを選び、学習する。	エ① オ②
10	・アーチ橋クイズ ・「アーチ橋の仕組み」豆事典 ・本単元の既習事項の活用と交流	・学習に取り組んでいる様子や態度の観察 ・発表の内容 ・画用紙などに書かれたことの考察

7 本時の学習指導（本時 5／10 時間）

（1）目標

大段落（二）を読み、石のアーチ橋のつくり方について、中心となる語や文をとらえ、要旨を読み取り、アーチ橋のつくり方をまとめることができる。

（2）評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
①石のアーチ橋のつくり方に興味・関心をもち、進んで中心をおさえて読もうとしている。	②段落ごとに中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えながら読み取ることができる。	①「まず」「次に」「最後に」「こうして」などの接続語の役割を理解している。

（3）展開

前時の学習内容	大段落（一）を読み、「アーチが、なぜ橋の組み立てに使われているのか。」の疑問について、その疑問を解くための実験の要旨を読み取り、まとめて書く。
---------	---

学 習 活 動 ・ 学 習 内 容 【読解力】	指導・援助と評価の創意工夫	分
----------------------------	---------------	---

1 本時の学習課題を確認する。 ・課題の確認 ・学習の進め方 石づくりのアーチ橋はどのようにしてつくられているのでしょうか。	・前時の学習を振り返り、なぜアーチが橋の組み立てに使われているのか、まとめたことを想起させる。
2 学習課題を解決する。 (1) 大段落(二)を音読する。 ・個人読み ・指名読み ・正確な音読 ・読む姿勢 ・適切な声の大きさ、速さ (2) 段落相互のつながりについて読み取り、各段落の要点をまとめる。 ・順序を表すつなぎ言葉を見つけ、四角でかこむ。 <押さえる語句> 「まず」「次に」「最後に」「こうして」 ・⑨～⑪の各段落ごとに中心となる語や文を見つけ、サイドラインを引く。 ・サイドラインを引いた語や文をもとに、要約文を書く。【読解力ア（イ）】 <押さえ方> ・つなぎ言葉に注目する。 ・中心となる言葉に注目する。 ・図と照応させる。	・形式段落⑦の文章や挿絵の写真からアーチ橋のつくり方に興味をもたせる。 ・問いとなる文を見つける。 ・「アーチ橋がどのようにしてつくられているのか」が書かれている段落を探させる。 ・繰り返し音読することで、文脈から大体の言葉の意味をとらえたりする読み取りの手助けとなるようにする。 ・問いの答えが⑨～⑪段落で述べられていることを「まず」「次に」「最後に」「こうして」の語句に着目しておさえる。 ・⑫段落は、⑨～⑪段落をまとめている文であることを「こうして」という接続語からとらえさせる。 ・おとししてしまうといけないう語や文を見つけたらサイドラインを引き、中心となる語や文について理解させる。 ・ノートに要約文をまとめるときには、二行でおさまるように言葉をしばって書かせるようにする。 ・要約文の文末表現は、敬体から常体に変えて短くまとめさせる。
<評価規準と手立て> ※ア① エ① オ① <評価方法> ノートの記述内容の考察 段落ごとに中心となる言葉を入れて要点をまとめることができたか。 A 前時までの学習を生かし、各段落の中心となる言葉を見つけ、自力で要点をまとめることができる。 B 前時にまとめた教科書のサイドラインやノートを参考にしながら、要点をまとめることができる。 C つなぎ言葉や段落ごとの中心となる言葉を見つけることができる。 手立て・・・図と照応させながら、つなぎ言葉や中心となる言葉をつなげながら書き込みをする。個に応じて、穴埋め式のワークシートを活用させる。 (3) まとめた要点を発表し、話し合う。【読解力ア（イ）】 <押さえる語句> ・じょうぶな土台 ・木のほね組み ・台形の石を積む。 ・かなめ石 ・はめこむ ・とりはずす	・挿絵と文を照応させながら、まとめるようにする。 ・出された要約文について、どの要約文がよりわかりやすく、正確に伝わるか吟味していくように話し合う。 ・板書した押さえる語句は、ノートの要

(4) まとめた要約文、中心となる語句について深く掘り下げ話し合う。【読解力ウ（イ）】 (5) 模型を使いながら、土台の必要性、台形の石の積み方、木のほね組みをはずす理由などを話し合う。 3 石づくりのアーチ橋のつくり方を、短い文でわかりやすく説明する文章を書く。 【読解力イ（ア）】 (1) 要約文をもとに、この文章を読んだことのない家族に伝える文章を書く。 (2) 説明する文章を発表する。 4 本時のまとめをする。	約文にサイドラインを引かせるようにする。 ・「じょうぶな土台とはどのような土台であるか」「台形の石はどうやって積んでいくのか」「木のほね組みをはずさなかったらさらに強いアーチ橋ができるのではないのだろうか」など文章に書かれていないことを想像しながら話し合い、読みにつなげていくようにする。 ・模型を使い、読み取ったことをもとにアーチ橋を実際に作ってみて読みを確認していく。 ・模型を使うことで、木のほね組みをはずしても橋は落ちないということを実感し、感動させたい。 ・この文章を読んだことのない家族に相手意識をもたせることにより、短い文の中でも正しくわかりやすい文章を書こうとする意欲をもたせるようにする。 ・順序を表す言葉、中心となる言葉を落とさないようにまとめると、正しくわかりやすい文章になることを理解させる。 ・本時の学習をふり返り、大事な言葉、要約の仕方について簡単に確認する。	5 5 10 2
--	--	--------------------------------------

次時の学習内容	大段落（三）を読んで、アーチ橋の歴史、現代のアーチ橋と昔のアーチ橋との違いや同じ点をつかみ、「今も生きている昔からのちえ」について読み取る。
---------	--

8 成果と課題

(1) 成果

- ①問いの文と答えを導く過程の要旨、答えの文を整理した板書、それに合わせたノート作りに取り組んだことにより、大段落の中の組み立てに着目した授業ができた。また、接続語を四角で囲ったり、大事な語や文にサイドラインを引いたりすることにより、中心となる言葉を見つけ、自分の言葉でまとめる力が付いてきた。



②細かな叙述の中で、「じょうぶな土台」とあるが「土台がなかったらどうなるんだろう」とか、「台形の石はどのように積んでいくのだろうか」、「木のほね組みをとりはずさない方がもっとじょうぶなのではないだろうか」など、疑問に感じた意見や異なる意見を話し合わせるにより、読み取ったことがより確かなものになったようである。自分の感じたことや考えたことがたくさん発表できた。また、意見を通わせる中で、模型を使うことにより、自分の読みと友達の見解と、目で見えた事実を重ね合わせることができ、読む力が深まったように感じた。

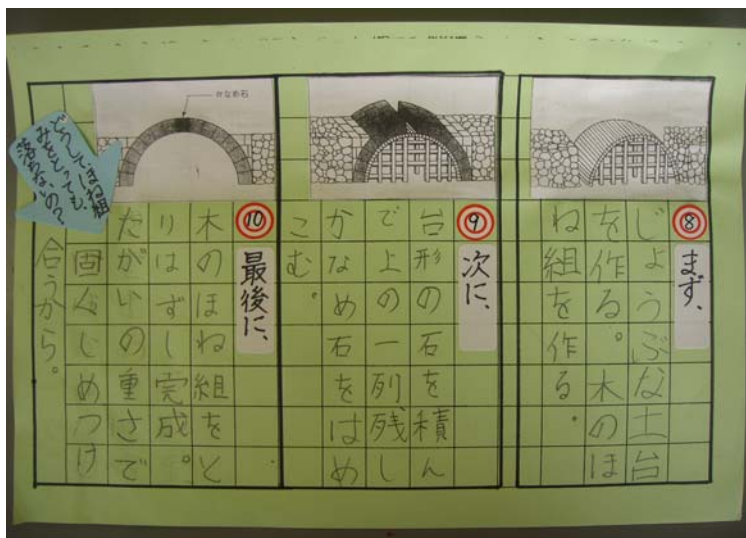


土台がないので、牛乳パックが動いてしまう。



じょうぶな土台を作り、ほね組みをはずすと固くしめつけあって組み合わせる。

③要約文をもとにみんなで話し合っ、大事な語や文を押さえてから、家族の人に伝える文章を書いたところ、ノートにまとめた要約文より、精選された文章を書くことができた。模型を使ったことも、完成した喜びから、家の人に伝えたいという意欲につながったように思う。



- ④はじめは「すごい。」という一言での感想が多かったが、読み取りを終えた後の感想では、細かな叙述に即した言葉での感想がほとんどであった。また、次の学習内容である「実験したことをもとに」の学習では、一人一人が違う実験や制作に取り組んだ。その際に行った、それを説明する文章作りでは、問いの文から答えの文まで、筋道を立てた文章を書き上げることができた。他にも、接続詞を効果的に使い、自分の伝えたいことや考えを、順序にそってわかりやすく表現することができた。
- ⑤一人一人に国語辞書を用意させたことにより、必要に応じて辞書を引こうとする態度が身に付いてきた。おかげで、難しい言葉も易しい言葉に置き換えたり、わかりやすく説明したりすることができるようになってきている。今後もぜひ継続していきたい。

(2) 課題

読解力向上のためには、一つの単元に終わらず、「話す・聞く」「書く」「読む」すべての活動において系統的に取り組んでいく必要性を感じた。また、自分の読み取ったことを表現できる場づくり、仲間づくりも大きな課題だと感じる。

また、今回は「アーチ橋の仕組み」という説明文で取り組んだが、どのような文章でも読める力が身に付くよう、読み方の手引きとなるようなものを学年ごとに作成し、系統的な指導を全校で行うことが課題であると感じた。